

秩父市の概要

秩父市は埼玉県の西部、東京都心まで約 60～80 km圏、県都さいたま市までは約 50～70 km圏に位置し、北は群馬県、西は長野県、南は山梨県及び東京都に接している。地域のほとんどが秩父多摩甲斐国立公園の区域や武甲・西秩父といった県立自然公園の区域に指定されていて、自然環境に恵まれている。また、甲武信ヶ岳を水源とする荒川が地域の中央を流れ、秩父湖、秩父さくら湖等のダム湖を形成している。東京から電車で約 1 時間半という交通至便なリゾート地・観光地として訪れる人も多く、特に羊山公園の芝桜（4 月）と日本三大曳山祭の 1 つと言われ 300 年以上の伝統をもつ秩父神社の例大祭「秩父夜祭」（12 月）には全国から多くの観光客が集まる。

昭和 25 年 4 月 1 日、県下 7 番目の市として秩父市が誕生、平成 17 年 4 月 1 日には大滝村、荒川村、吉田町と合併し新「秩父市」となった。秩父市の市域は、東西約 40 km、南北約 30 km、総面積が 577.69 km²で埼玉県全体の約 15%を占め、また総面積の約 87%が森林である。平成 18 年 1 月 1 日現在、人口は 72,447 人、世帯数は 26,138 世帯で、近年の傾向としては人口が微減、世帯数は微増傾向で推移している。

交通は、秩父鉄道の「黒谷」「大野原」「秩父」「御花畑」「影森」「浦山口」「武州中川」「武州日野」「白久」「三峰口」の 10 駅と西武鉄道西武秩父線の「西武秩父」駅があり、東京から約 1 時間半で結ばれている。また、市内には国道 140 号と国道 299 号が通っており、国道 140 号雁坂トンネルの開通にともない、関西方面からのアクセスが向上した。さらに、平成 20 年代完成を目標とした国道 140 号西関東連絡道路皆野秩父バイパス事業が進行しており、秩父市内の渋滞緩和やアクセスの強化が期待されている。

秩父の産業は、江戸時代には木材や絹織物が盛んになり、現在でも秩父銘仙や秩父つむぎが有名である。また、杉、檜、ブナ、カツラ、竹等の豊富な天然木材を活かした工芸品が地場産品として生み出されてきた。大正時代には武甲山から石灰岩の採掘が始まって、セメント産業が発達した。近年では電子産業が発達し、新たな地場産業として成長している。商業施設は大型店を中心とする商店街エリアと秩父駅を中心とする商店街エリアの 2 つの中心商業地に集積しているが、市街地の梅造や道路形態が古い状態のままの地区もあり、買物の安全性、回遊性、娯楽性に欠け、駐車場も不足している。

秩父市には秩父観音札所 34 カ所巡りや SL の運行等特色ある観光資源が豊富に存在する。既に道の駅ちちぶの建設や大型駐車場の整備、市道幹線 51 号線の拡幅工事等で観光客等の利便を図るとともに、羊山公園の整備や秩父ふるさと館相田みつをギャラリーのオープン、歴史文化伝承館等の新たな観光資源も整備した。今後はこうした観光市街地形成事業を推進するとともに、中心市街地の活性化、商業環境の近代化を図り、通年型の観光地づくりを進めていくことが求められている。